

# イスラームの国

太田好信

パキスタン回教共和国は現インド共和国の北西部に位置し、英領インドから分離独立し現在四三年の壮年期の若い国だが、その昔BC二二〇年頃はガンダーラと云う地名で呼ばれ、東西文化の交流地としてシルクロードの要所であった。それゆえに各時代の権力者や他民族に依り侵攻されて近世になり、イギリスの支配下約一世紀があった。民族宗教としてイスラム教は約千年ものあいだ多少の盛衰は有ったが現在は殆どイスラム教徒だ。

パキスタン回教共和国の国名が示す回教はイラクとは宗教で同盟国であるが、湾岸戦争では多国籍群参加出兵までしているのはなぜだろうか？

私なりの思考ではパ国の北東部は前述した他民族や権力者により幾度か侵略された経緯があるので湾岸戦争終結後を予測し多国籍軍に加盟したのだと思う。然し国民のほとんどがイスラム教徒なので国民の一部は「フセイン」を回教徒の英雄として支持応援するが我々にもうなづ

ける。

街中を歩くと「フセナイ」のポスター売りの少年、パキスタン国旗を振るデモ隊、ポスターを張った車、自動小銃を持った民兵、など緊張した状況に出会った。

暁暗にコーラン流る冬の空

### ガンダーラ美術

ガンダーラ美術はいうまでもなく仏教に関係した宗教美術であるが、西洋風の顔だちの特異性は釈尊が<sup>3</sup>入滅された当時遺骨を収めた塔が<sup>3</sup>礼拝的であったが、その後二〜三世紀後ギリシヤ神像彫刻を手本としてガンダーラ地方で<sup>3</sup>仏像が製作されたと伝えられている。それゆえ紀元一世紀半頃の<sup>3</sup>仏像はギリシヤ風な容貌をしているがこれがインドに<sup>3</sup>里帰した頃には現代の<sup>3</sup>仏像に近い型に変遷していた。

時の権力者が二代三代と変るうちに他宗教が<sup>3</sup>

ガンダーラ派仏像（ラホール博物館）



勢力を得、特にイスラム教の蔓延に仏教美術は衰微し、戒律の厳しいイスラム教徒によって石仏、寺院は破壊され、永い年月に地下に埋没してしまった。

むなしさや石仏くづる寺院跡

### インダスの古代都市

モヘンジョダロ（死者の丘）は世界的なインダス文明遺跡の一つで紀元前二〇〇〇年頃栄えた古代都市だが、内容は近代都市そのものであった。メインストリートによる区画、給排水溝、貯水所らしきもの、共同ゴミ集積所、等住宅を含め総て練瓦で構築されている。この都市は昔森林に囲まれていたらしいが樹木の乱伐が原因？か毎々洪水にみまわれたらしく重層的に新旧の跡が見られた。BC一五〇〇年頃「アーリヤ人」に侵攻され滅びたという説もあり崩壊の原因は定かでない。

### カメラがとりもつ縁

旅行中に冠婚葬祭にて会ったことはあったが今回は結婚披露パーティーに参加させてもらった。

シャワーを浴び明朝の移動に備えトランク内を整理していた時、窓外から時ならぬ音楽が聞えたので庭園へ出てみたら新郎新婦が入場するところだったので、急いで自室に戻り背広に着がえて庭へ出た。ガードマンにカメラを見せ中に入れてもらった。儀式は終わらしく兩人は花で飾られたステージで来賓から祝福を受けたり、お祝の贈物などを頂いている。受台にはむきだしのルピー紙幣が、幾枚か見える。日本人の様な体裁をつけないらしいので、私は手持の三色ボールペンを新郎にはなむけとし片言英語で祝い、写真を撮る。

広い園内は着飾った女性たちでまばゆい。民

族衣装の娘さんを二、三枚撮り帰りかけた折娘さん二人が追いかけてきて赤い薔薇を呉れる。先程アドレスを聞いた娘さんなので私も一緒にならば記念写真を撮り、帰国後郵送することを約し別れた。

ばら一輪 嬉しき老の旅路かな

### デスクサイド

似て異なるものは、かつて我々が味わった戦争と今回の湾岸戦争であろう。多国籍軍の猛攻の最中イラク大統領フセインが地にひれ伏して神に祈る姿がテレビに放映された、彼は己の身を守る為シエルターの奥深くで全軍に命令、指揮し、外での姿は替玉か戦前の録画ではないかとも言われる。

彼等イスラーム教徒は一日に五回も神に祈を捧げるが、その場所は家の内外どこでも小綺麗な所に布一枚を敷き大地にぬかづき敬虔なお祈

をする。フセインも其の一人であろう。

イスラーム教は一神宗教であるから信者総ての祈は神のみが受け、神のみが答える。

例えば神がフセインに対し「お前は戦争の責を負い死ね」と答が出たら彼は喜んで神の言葉に従うであろう。或いは「機会をみてイラク国民の為に再起せよ」と神の指示があればいつの日再び戦が起ることもあり得る。コーランの強さは絶対的なものらしい。

翻って最近の日本人の宗教的祈はあまりにも安易に現世利益を得る手段としての祈であるならば、神仏を冒瀆するも甚だしいことだ。